

# 連合救援ボランティアレポート

第19号  
2011年5月12日

| 1

## 地域との交流で復興を応援

連合の救援ボランティア隊が各地で活動する中で、現地の方々との交流も深まっている様子が伝えられています。ボランティア第4陣に参加し、岩手県宮古市を中心に活動したUIゼンセン同盟の櫻井万弓さんから、現地で活動中に知り合った方との心温まる触れ合いについて手記をいただきました。

私たちのボランティア活動先である<sup>くわがきま</sup>鉾ヶ崎小学校は、宮古港から400~500m街中の高台にあり、体育館が避難所となっています。小学校より低地はすべて津波の被害に遭い、打ち上げられた大きな船や家屋のガレキなど凄まじい光景が広がっています。

そんな中、私たちはガレキの中に赤い『たばこ』の旗を掲げて、軽トラック1台でたばこお酒を販売している男性に出会いました。川部さんとおっしゃるその男性は、津波で店舗を流されてしまい、知人から譲り受けた軽トラックと支援物資の作業着で、4月26日に店舗のあった場所で営業を再開させたところでした。「ここでがんばっていく!!」と言うおじさんの前向きさに感動しました。

その夜、メンバーで相談し、この地域で再開第一号となったお店の開店日に、私たちが最初のお客になったことに縁を感じ、復興と応援の気持ちをこめて、宿舎にあるもので看板を作りしました。

翌朝お店の川部さんにプレゼントしたところ「ダメだなあ…涙もろくなっちゃって…」と言いながらも笑顔を見せてくれました。…喜んでくれたかな??

被災されたみなさんは、現地に来る前のメディア情報から想像していたよりもずっと遅く、前向きに再建に取り組んでいます。今後はそのことも踏まえた活動と心構えが必要であり、それを多くの方に伝えていくことが重要だと感じました。

(UIゼンセン同盟 武全連・ワイス労働組合 櫻井万弓さん)



■お店の前にて川部さん親子と共に。  
(中央で手作り看板を持つ川部さん親子を囲み、UIゼンセン同盟ボランティア隊の皆さん。左後方に見えるのが鉾ヶ崎小学校)

# 新拠点で思い新たに =岩手・住田拠点 活動スタート=

5月10日、岩手では3か所目となるボランティア拠点が気仙郡住田町に開設され、全国から集まった日教組の18名がボランティア活動を開始しました。

作業初日となった11日は、大船渡社会福祉協議会との連携のもと、3班に分かれ、大船渡市内の被災家屋の家財道具搬出や泥出し、庭の掃除などを行いました。被災者である家主とのコミュニケーションを大切にしながら作業を行い、家主からは「いままでは遠慮して頼めなかったんだけど、他にもやってほしいことが・・・」と、追加の作業を頼まれることも。今後は、社協と連携を取りながら、陸前高田地域でも活動を開始する予定です。



■社会福祉協議会と打ち合わせをする連合ボランティア隊



■被災家屋の庭でヘドロ掃除を行う